

長野県のシダ植物雑記 (5)

大塚 孝一

K. Otsuka ; Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (5)

24. セフリイノモトソウ *Pteris* × *sefuricola*

Kurata

本種はイノモトソウとオオバノイノモトソウとの雑種と推定される種類である。形態的には、羽片の幅、葉身や葉柄の長さ等両者のほぼ中間である。どちらかという、オオバノイノモトソウに似ているが、葉質はより薄く、多少波うつ傾向がある。イノモトソウは、葉軸に顕しい翼があるが、オオバノイノモトソウには通常翼がなく、あってもごく小さい。セフリイノモトソウは、葉軸の上部に翼がでることが特徴的である。

本県からは従来知られていなかったが、天竜村から採集された。イノモトソウ、オオバノイノモトソウとも暖帯性のシダであり、本県では木曽南部、下伊那地方に主に分布し、県北部(姫川流域)にも稀に産し、また、内陸部でもごく稀に見られることがある。木曽や下伊那ではもっと産地が見い出せるものと思われる。セフリは福岡県背振山系に由来する名前である。

〔採集記録〕 下伊那郡天竜村平岡(大塚, 1989.11.11)

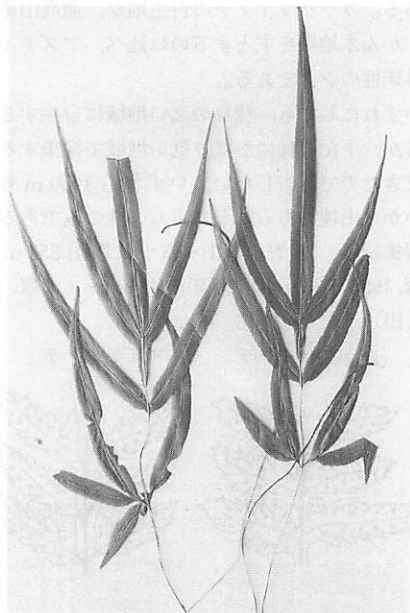


写真 13 セフリイノモトソウ

25. ツルデンダ × イナデンダ *Polystichum* *craspedosorum* × *P. inaense*

本雑種が最初に採集されたのは、1973年長谷村戸台においてであり、芹沢(1976; 日本シダの会々報第2巻26号)により記述されているが、記録としては広く知られていないので、新ためて紹介したい。

本雑種はツルデンダに良く似ていて、葉が放射状に広がっているが、羽片の切れ込みが深いため、特徴的である。

ツルデンダ、イナデンダとも好石灰岩地性のシダであり、ツルデンダは県内広く分布するが、イナデンダの産地は県内では、長谷村戸台と大鹿村豊口山周辺と、県境の十文字峠付近に限られている。本雑種はイノデ属の中でも異節間の雑種で、めずらしく、採集例もその後ほとんど知られていない。

〔採集記録〕 上伊那郡長谷村笹平沢〜白岩(芹沢俊介, 1973.8.11 AICH)

26. ミヤマシケンダ × ヤリノホシケンダ

Lunathyrium pycnosorum form. *glabrum* × *L. conilii* var. *angustatum*

戸隠山に産するシケンダ類で、ミヤマシケンダとヤリノホシケンダとの雑種と推定されるシダがある。葉は50~70 cm, 全体の形はヤリノホシケンダに似ているが、羽片はミヤマシケンダに似ている。葉柄、葉軸はほとんど無毛である。葉身の下部は狭くなるものと、逆に最下羽片が大きくなるものもある。根茎は直立せず、やや短くはう。胞子は不定形である。

ミヤマシケンダを片親とする雑種は、日本ではコウライイヌワラビとの雑種であるキヨシミケンダが知られているのみであるが、最近その他のものも知られてきている。

〔採集記録〕 上水内郡戸隠村戸隠山(大塚, 1986.8.16)

27. ミヤマオクマワラビ *Dryopteris polylepis* × *D. nuiiformis*

本種はミヤマオクマワラビとオクマワラビとの雑種と推定されるシダで、フジオシダ(オシダ × オクマワラビ)と良く似ている。フジオシダとは、葉身がやや細く、繊細な感じを受けること、羽片裂片がそれほど込み合うことがないこと、裂片の側脈は単条

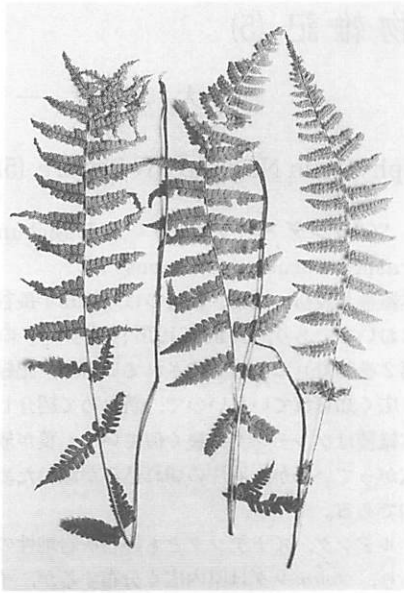


写真 14 ミヤマシケシダ×ヤリノホシケシダ

(フジョシダでは二又)が多いこと、葉柄のリン片はやや少なく、また黒味が強いことなどで区別ができる。

下伊那郡豊丘村から知られていたが、下記でも採集された。

〔採集記録〕飯田市座光寺(大塚, 1989.10.30)

28. タカオキノデ *Polystichum* × *takaosane-nse* Kurata

本種はアイアスカイノデとツヤナシノデとの雑種と推定されるシダで、前種に比べ中軸リン片が幅広く、後種に比べ中軸リン片が小さく、葉柄基部には黒褐色のしまのはいったリン片がある。

本種は下伊那、上伊那から知られていたが、木曽でも採集された。ツヤナシノデは全県的に広く分布し、量的にも多い。アイアスカイノデは木曽、下伊那を除けばごく稀で、産地は限られる。

〔採集記録〕木曽郡南木曽町田立(芹沢, 1980.5.24 AICH)

29. ウスヒメワラビ *Acystopteris japonica* (Lueruss.) Nakai

本種は夏緑性で、葉は30~60cm、葉身は3回羽状、葉柄、葉軸は紫褐色で、葉全体に白毛があり、繊細な感じで、美しいシダである。

本州、四国、九州の暖地に自生し、本県では木曽南部に割合多く見られ、大町市高瀬入、飯田市大平、ニッ山、根羽村などでも採集されている。今回堀金村のかなり標高の高い所で採集された。ここのものは、皆葉柄、葉軸の色が黄緑色である。この様なも

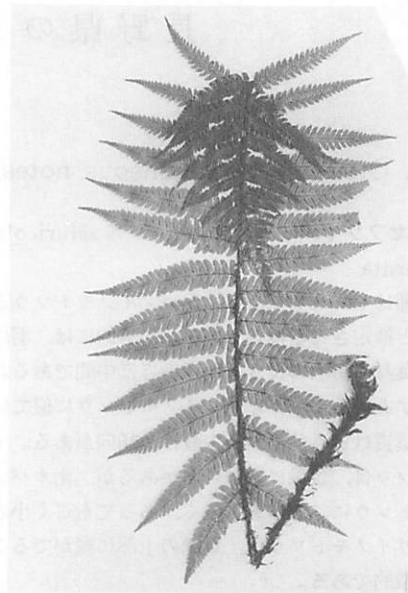


写真 15 ミヤマオクマワラビ

のは従来から知られているが、地理的にも興味深い。

〔採集記録〕南安曇郡堀金村三股上流 1700 m

(大塚, 1989.9.17)

30. アズミノデ *Polystichum microchlamys* var. *azumiense* Serizawa

本種はカラクサイノデの変種で、小羽片が羽軸からほとんど独立し、翼をつくらず、中軸リン片が小さいことで特徴づけられる。自生地はカラクサイノデよりも低い所にあり、およそ 1400~1700 m 付近である。カラクサイノデの自生地が、亜高山帯の草地、かん木地帯を主とするのに比べ、アズミノデは林床性のシダである。

いずれにしても、標高の高い地域に自生するのであるが、下記のようにかなり低い地域で採集することができたので報告したい。いずれも 1000 m あるかないかの山塊である。どちらも一株のみである。

〔採集記録〕長野市旭山~富士ノ塔山 850 m (大塚, 1988.5.28), 同陣場平山 1100 m (大塚, 1988.6.19)

カラクサイノデ

アズミノデ



図3 羽片、小羽片の形